

## 「国際天然ガス情勢の展望」

### < 報告要旨 >

一般財団法人日本エネルギー経済研究所  
化石エネルギー・電力ユニット ガスグループマネージャー 森川 哲男

#### 2015-16 年の天然ガス価格の展望

1. 2015 年 5 月の日本の天然ガス輸入価格は\$8.9/MMBtu であったのに対し、アメリカ及びイギリスの卸売価格はそれぞれ\$2.9/MMBtu 及び\$6.9/MMBtu であった。また、7 月着の北東アジア向け LNG スポット価格は\$7-8/MMBtu であると推測する。
2. 油価急落を受けて、2015 年初から日本の LNG 輸入価格が低下してことから、2015 年 1-5 月の LNG 輸入額は 2.7 兆円と前年同期比から 17%も減少している。2014 年後半から加速化した円安にもかかわらず、価格低下が輸入額減少に寄与している。
3. スポット LNG 価格は\$7-8/MMBtu で推移するものの、原油価格（2015-16 年の輸入価格：\$63-73/bbl、報告 1「国際石油情勢の展望」参照）の緩やかな上昇から、日本の平均 LNG 輸入価格は、2015 年下期は\$8.8-9.1/MMBtu 程度、2016 年は\$9.3-9.7/MMBtu 程度と予測する。
4. 2015-16 年の欧米市場価格に関して、アメリカ・ヘンリーハブ及びイギリス・NBP の先物フォワードカーブは\$2.8-3.4/MMBtu 及び\$6.5-7.4/MMBtu と安定している。

#### 2015-16 年の国際天然ガス情勢

5. 世界の LNG 需要は、欧州での若干の持ち直しを含めて全体として増加し、2015 年は 2 億 4,600 万トン、2016 年は 2 億 7,200 万トンとなる。供給面では、エジプトやアンゴラでは輸出の停止が続くものの、アルジェリア (Gassi Touil)、パプアニューギニア (PNG LNG)、インドネシア (Donngi Senoro)、マレーシア (Petronas LNG、Petronas FLNG)、豪州 (QC LNG、Australia Pacific、GLNG、Gorgon)、米国 (Sabine Pass) での新規プロジェクト稼働本格化あるいは開始により、供給力は 2015 年に 2 億 5,400 万トン、2016 年に 2 億 8,700 万トンまで拡大する。需要の増加に対して十分な水準の供給が存在する。大幅な供給力増強を背景に、買手市場化が加速することが見込まれる。
6. 2014 年からの油価下落により、アジア向け LNG 価格も低下した。しかし、原油価格が再び上昇すれば、LNG・天然ガス需給状況と関わりなく、LNG 価格も上昇してしまうという石油価格連動の非合理性という課題は残ったままである。価格決定方式の多角化が進行しているが、合理性の観点からは、LNG・天然ガス自体の需給で価格が決定されることが望ましい。
7. 2015 年 1-3 月で、OECD 米州及び北東アジアの天然ガス需要伸び率は前年比でそれぞれ 2%及び 4%と堅調に推移している。原発再稼働の遅れが影響し、日本の需要は過去最大レベルを継続している。2014 年も前年割れとなった欧州の需要であるが、主として気候要因から 2015 年 1-3 月では対前年同期比で 13%増となった。しかし、ギリシャ財政問題の欧州金融市場や欧州経済への影響が懸念される中、欧州の需要が下げ止まったと判断す

- るのは時期尚早である。
8. 低いヘンリーハブ及びWTI 価格にもかかわらず、シェールガス生産性向上がアメリカの天然ガス生産量増加に寄与している。アメリカでのLNG 輸出プロジェクトのうち、4件（約5,200万トン/年）が非FTA 締結国向けの輸出許可及び液化設備建設許可を受けている。一方、カナダのプロジェクトは、環境承認やマーケティングの面で相対的に遅れているが、2015-2016年にかけて最終投資決定に至るプロジェクトが出現すると予測する。
  9. 需要低迷が長期化している欧州であるが、ウクライナ危機前後から天然ガス供給セキュリティ懸念が高まっている。2015年2月に発表された欧州エネルギー同盟でも、天然ガスの供給安全保障への取り組み強化の必要性が指摘されている。また、6月のG7首脳会合でも天然ガス市場の強靱性と柔軟性の強化が掲げられた。
  10. ロシアの天然ガス輸出量は2014年に193bcmと前年比で12%も減少した。ロシア・EU関係改善が見込めない中、ロシアにとって欧州に代わる市場としてアジアの重要性が高まっている。但し、昨年後半以来の油価低迷により、膨大な投資を要する東シベリアでの天然ガス開発より、西シベリアから中国への供給の優先順位が高まる可能性がある。また、ロシアにとって、中国だけでなく、日本を含むアジア諸国へのLNG・天然ガス供給拡大も課題である。
  11. 中国の天然ガス需要増加は堅調であるが、マクロ経済の減速及び天然ガス価格競争力の低下により増加ペースが鈍化している。一方、競争力のあるパイプラインガス輸入量増加が著しく、LNG受入基地の低稼働率が継続している。LNGスポット価格下落によるLNG輸入量増加の兆しは現時点では見られない。
  12. 2014年のスポット及び短期契約によるLNG取引量は6,958万トンで、取引量全体の29%を占めた。その内、スポット取引は約2,400万トン程度であったと推測する。日本は世界最大のスポット及び短期契約によるLNG輸入国であり、供給柔軟性や調達コスト削減の観点からスポット及び短期契約の重要性が高まっている。